

幻のケーブルカー

JJ1SXA/池

遠い昔の渋谷には幻といわれる空中ケーブルカーがありました、その名は「ひばり号」、空中ケーブルカー「ひばり号」は1951年(昭和26年)8月25日開業、東横百貨店(現、東急東横店東館)屋上と、その隣にあった玉電ビル(現在の西館)屋上とを結び、渋谷の空の遊覧を楽しむことが出来たが、1953年(昭和28年)、玉電ビルの大増築工事に伴い、「ひばり号」は惜しまれつつ廃止された、1954年(昭和29年)、4階建ての玉電ビルは11階建ての西館としてリニューアル。

ちなみに、「ひばり号」は定員12名で子どものみ乗車可、遊覧距離は75m、ルートは1往復して東館に戻ってくるだけだったという。

乗車券を見ると、「小人10エン」の文字が、昭和26年当時としては、そこそこの値段だったと思うが、結構の気で行列ができるほどだったようだ、戦後のまだ高い建物が無い時代、とても貴重な渋谷の空と街を見渡せたのだと思います、ちなみに、この昭和26年は私が高校に入った年、時代を感じる。



前記の、玉電ビルは、いわゆる玉川電車の渋谷駅跡のことだ、玉電は、今は廃止された「東京急行の路面電車・玉川線」のことで、渋谷区の渋谷駅と、世田谷区の子玉川園駅(現二子玉川駅)、及び途中の世田谷区の三軒茶屋駅と下高井戸駅を結んでいた。

1907年(明治40年)に開業後、多摩川の砂利輸送、大山街道(国道246号)沿線の旅客輸送を行っていたが、その後、自動車の交通量が増加し道路の渋滞が激しくなったことから、1969年(昭和44年)に一部区間(現在の世田谷線)を除いて廃止され、代替路線として地下線の新玉川線(現在の田園都市線の一部)が1977年(昭和52年)に開業した。

東急百貨店の解体工事現場で、1階の天井板をはがした時に現れた、玉電が走っていた時の名残りのアーチ型の天井。(全て解体された)



世田谷線についてだが、環七通りと平面交差する「若林踏切」では、電車が来たら、環七の交通を止めるのではなく、信号(交通信号)が変わるまで電車の方を待たせる仕様になっている。(第4種踏切…警報機も遮断機もない踏切)



昭和27年の映画「東京のえくぼ」(松林宗恵監督)の中で上原謙と丹阿弥谷津子が「ひばり号」に乗るシーンがあり、この貴重な動画が残されていて、「ひばり号」が実際に動く様子が見られる。動画の、URLは、「<https://youtu.be/t6JrFsa5STA>」